

入選

水が私たちのもとまで来る道のり

矢吹町立矢吹中学校 二年 西山にしやま 璃優りゆう

みなさんは、身近に存在する水を大切にしていますか。また、その水はどこから来ているのでしょうか。

私の暮らしている矢吹町では、ダムのおかげで水が流れて来ています。昔は、矢吹ヶ原と呼ばれていました。当時は水が少なく、争いが起き、血を流しながらも争いは続いたそうです。このことがきっかけで「星吉右衛門」と言う人物がダムを造ろうと考えたのです。今から百三十六年前明治十八年のことでした。彼は、矢吹町だけでなく多数の町も使用可能にするため、県に意見を出し、人々の協力と後世の人達の思いで約七十年後ついにダムが完成しました。

それは、羽鳥ダムといい、「星吉右衛門」は完成したダムを見る事ができませんでした。彼らは、今

生きている私たちのために、これから生きる人たちのためにこのような贈り物を残してくれたのだと、私は感謝の気持ちしかありませんでした。きっと、それはこの町だけではありません。「星吉右衛門」は、当時生きていた人々のためにダムを考えたのかもしれないが、今後、生きていく私たちの生命をつなぐ事にも関わってきます。人の命を助けようという行動に出たこの人物は、今でも町で有名に知られており、そのダムは、見学学習にも活用されています。

「生きる」という「思い」が「願い」がダムに込められている、そう思いました。だからこそ、ダムを大切にし、支えていくのだと改めて感動しました。今もこの「思い」が「願い」が受けつけられているのではないのでしょうか。

羽鳥ダムは、田んぼの水に使用されているので私たちの暮らしの中では、米として出されています。いつも美味しいご飯が食べられる、その事実にまた、感謝の気持ちがあふれてきました。水が無ければ食物は作れないので、田んぼだけではなく畑など、多くの食物が得られなくなります。まさに、水は人間だけではなく、動物や植物にも生きていく上で必要不可欠なのです。それを踏まえると、昔、矢吹ヶ原で生きていた人は、どれだけ苦しい思いをしていたのか、私には想像がつきません。

そして、私たちの日常で使われている水は堀川ダムから流れてきています。堀川ダムも私たちの生活を支えてくれている重要なダムです。このダムは羽鳥ダムとは別の目的で造られています。矢吹町や多数の町にも水を送ってくれています。二つのダムと水が発展の町へと、田園のまちへと導いたので

す。

私たちに出来る事、それはやはり節約です。ダムの水を多く使用している一つがなんと矢吹町だったのです。水の使用を少しでも減らすには、日常での

水の量を節約していくしかありません。すぐに取り組める対策なのでみなさんも水を使用する時は、節約を心がけて下さい。水の使用する量が減少すれば環境のためにもなります。

水は、このように命をつないでくれるのですが、時には命を奪ってしまうものでもあります。

「東日本大震災」では津波でたくさん命が奪われてしまいました。水は災害の一つであり、洪水や氾濫の被害もあります。水も自然でありながら、いつどのような天災が起きるかわかりません。しかし、人間の手で汚された川や海を通じて命を落とされている人もいます。海の生物もプラスチックのゴミで生きていけなくなってきました。災害の一つである水でも私たちの生活面を見直していけば救える命が、増えるのではないのでしょうか。

水も私たちも支え、支えられなければ人間だけではなく、他の動物も命を落とすでしょう。水は自然と人間の力で私たちのもとまで来ているのです。